

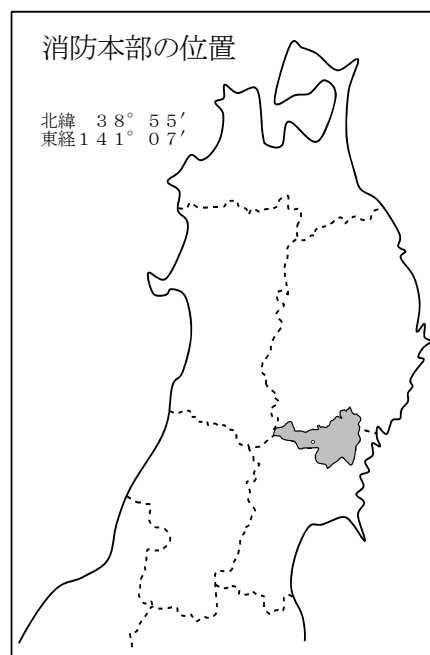
位置及び地勢

当市は、岩手県の南端の北上川中流域に位置し、南部は宮城県、西部は奥羽山脈を隔て秋田県との県境に接している。人口は平成22年4月1日現在で121,260人（管内人口139,134人）、世帯数42,133世帯（管内世帯47,688世帯）となっている。

交通面では、岩手県の南玄関口であり、首都圏から東北自動車道で約4時間30分、東北新幹線で約2時間30分であり、盛岡市と仙台市のほぼ中間に位置し（两市へ約90km）、三陸方面への分岐点であり、交通と経済の中間拠点としての役割を担っている。

管内には、藤原氏が奥州全域を統治した時代の中尊寺金色堂（国宝建造物第1号）並びに浄土庭園で名高い毛越寺、天然記念物の奇岩甌穴（おうけつ）の名勝巖美溪、日本百景で両岸に屹立絶壁の名勝狛鼻溪、名湯の一関温泉郷、国定公園栗駒山や県立自然公園室根高原山麓には、さまざまな木々や植物が繁殖し、春の新緑、秋の紅葉など四季の変化が美しい豊かな自然景観等すぐれた歴史的文化遺産を有している。

また、「奥の細道」での芭蕉の最北の宿として知られている一関市「芭蕉行脚の道」は、昭和61年、建設省により「日本の道百選」の一つに選定されている地域でもある。



消防本部の沿革

昭和47年4月 岩手県指令第8号により、岩手県知事から1市6町2村による両磐地区消防組合の設立が許可されると共に自治省告示第106号により消防本部、消防署設置町村として指定される。

既設の一関市消防本部、消防署（昭和24年3月1日創設）、花泉町消防団常備部（昭和39年4月1日創設）及び千厩町消防団常備部（昭和39年10月1日創設）を合併し、とりあえず既存の消防施設及び消防組合に身分移管した消防職員66名をもって消防業務を開始する。

平成17年9月 市町村合併により一関市、平泉町及び藤沢町の1市2町の構成市町となる。

平成17年12月 構成市町議会において、両磐地区消防組合の解散及び財産処分をそれぞれ議決される。

また、一関市が平泉町及び藤沢町の消防事務を受託すること、並びに平泉町及び藤沢町が一関市に消防事務を委託することをそれぞれ議決される。

平成18年3月 両磐地区消防組合を解散する。

平成18年4月 一関市消防本部を設置する。